

令和6年度第2回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和6年11月13日(水) 午後2時～午後4時

2 開催場所 浦安市立中央図書館2階 視聴覚室

3 出席者

(委員) 松本委員長、西村副委員長、井上委員、高橋委員、新井委員、堀内委員、舘委員、
齊藤委員、日比谷委員、花村委員

(事務局) 中央図書館長、中央図書館職員5名

4 傍聴人 1名

5 議題

報告事項

- (1) 令和6年度上半期利用統計及び事業報告について
- (2) 令和6年度図書館自己点検評価について
- (3) その他

6 議事の概要

報告事項

- (1) 令和6年度上半期利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。
- (2) 令和6年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。
- (3) その他、委員から情報提供及び図書館運営に関する意見が表明された。

7 会議経過

報告事項

- (1) 令和6年度上半期利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。また、
ファブスペースの利用についても事務局より報告を行った。その際に表明された意見
(質問) は次のとおり。

(委員) ほとんどの統計数値が前年度比で減少しているが、浦安だけでなくここ数年、全
国の図書館で減少傾向が続いている。特に貸出数の減少の理由として、何かご意
見をお持ちか。

(事務局) 平成22年をピークに個人貸出は全国的に下降している。本市では、中央図書館
の大規模改修後、来館者数は増加している。本を借りていく方の減少、一人当た
りの貸出冊数の減少が見られる。文化庁が実施した「国語に関する世論調査」に
よると、1カ月に1冊も本を読まない人(16歳以上)が6割を超えている。要因

はひとつではないが、リモートワークが増えて、電車通勤時間での読書（デジタルを含む）が減ったという声もある。一方で問い合わせ、レファレンス件数は増加しており、図書館にできることを引き続き地道に行っていきたい。

(委員) 浦安だけの傾向ではない。指定管理制度を導入している図書館で、「貸出を増やすこと」を仕様を含めているところもあるが、貸出を増やせていないと聞く。東京都下の図書館では、貸出が2～3%減っている。浦安は5%程度減っているがリクエスト件数は減っていないことを考えると、新規利用者への広がりが少ないことも要因として考えられる。

(委員) 集会事業の回数や参加者数は増加しているが、理由は。

(事務局) 回数については、ファブスペースの利用講習会による増。参加者数はリサイクル事業の参加者による増である。

(委員) 児童書の貸出数の減少や、少子化を考えると、子ども図書館の必要性も問われることになるかと思う。子ども図書館の構想について進捗状況を知りたい。

(事務局) 児童数も減少傾向にあるほか、中央図書館に親子でゆっくり本を読めるスペースを作ったことで、以前は、一度に大量に児童書を借りる親子が多かったが、図書館で絵本を読んでいる姿も増えた。利用の仕方にも変化があったと考える。子ども図書館については、生涯学習課を担当課として計画を進めている。

(委員) 学校図書館は相当充実して来ているように思う。また、浦安の図書館は児童へのよみきかせ等の事業については、さかんに実施しているので、貸出数の減少には別の要因があるのではないか。借りないで読む文化が始まっていると感じる。

(2) 令和6年度図書館自己点検評価について、事務局より説明を行った。また、委員による評価に関して、今後のスケジュールや提出方法について説明を行った。その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

(委員) 対面朗読の件数は延べ件数か。実利用者は何人か。

(事務局) 延数である。2名の方々が継続して利用している。

(委員) ものづくり環境運営事業において、学校との連携は具体的にどのように進んでいるか。

(事務局) 検討の段階である。

(委員) 来館者が増えているが、貸出は減っている。何を目的とした来館が増えていると考えるか。

(事務局) 行事への参加、学習室等の座席の利用が考えられる。館内で本を読んでいる滞在型の利用も多い。

(委員) 貸出は減少しているが来館者は増加している現象が、全国的にも増えている。

(委員) 図書館での読書も良いものである。勉強の場として図書館の雰囲気を求める人は多い。

(委員) 図書館のあり方は貸出だけではないので、滞在型になっているのは悪いことでは

ない。幅広い対象者が多様な利用の仕方をしているのは良いことだと思う。

(委員) 対面朗読を Zoom で行っている図書館もあるが、予定はあるか。

(事務局) 今のところ実施する予定はない。

(委員) 図書館はさまざまなPR活動を行っているが、市でのイベントに図書館のブースを出すこと等は検討しているか。

(事務局) うらやす市民まつりが開催された際に、リサイクル事業としてテントを出して参加したこともあった。今年度は、市民まつりに来た人たちに、図書館の中に入って来てほしいという思いから、市民まつり当日に中央図書館内でリサイクル事業のイベントを開催したところ、多くの市民が来館し、高い効果が得られた。

(委員) 青少年館では学校に行けない子どもへの対応を行っているが、図書館でもそういう子どもたちを見かけるか。

(事務局) 開校日の日中に子どもが図書館内にいたとしても、特別な声かけはしないようにしている。来館した場合には安心して過ごせるよう、心がけている。

(委員) 来年度から浦安市学びの多様化学校が選択できるようになる。学校に行けない子は一定数おり、要因は人間関係や生活習慣の乱れなどさまざまである。

ファブスペースと学校等との連携については、ぜひ検討結果を教えてください。

入船小学校の図書館をメディアセンターに改修中のため、入船中学校内の1室に小学校用の図書室を設けている。そこで初めて小学校の図書室の活動を見たが、特に低学年の子にとっては本を実際に手に取ることが大事だと思った。中学校はタブレット端末で調べ学習をするため、図書館は本好きの子や休憩時間に教室に居づらい子の居場所となっている。

本離れは明らかに進んでいると感じるが、中学校のカリキュラムの中で読書の時間を確保しづらくなっている。本を手に取る物質性は大事なので、子どもたちに経験させたいとは思いますがむずかしい。

(委員) 読書は、読解力や表現力などのベースとなる体験であると思う。

(3) その他、事務局より、今後の事業予定のほか、図書館が取り上げられた広報やテレビ番組等について報告した。また、委員から以下のような情報提供及び図書館運営に関する意見が表明された。

(委員) 11月上旬、三田図書館・情報学会において、筑波大学の池内淳氏より、「公共図書館における電子書籍サービスのコンテンツに関する実態調査」と題した発表がなされた。

電子書籍サービスは、浦安の図書館では以前検討したが見送ったと記憶している。全国の3分の1にあたる600弱の自治体で電子書籍を導入しているが、新たに導入する自治体は急減している。コロナ対策の政府助成金がなくなったことが要因

と考えられるが、電子書籍は紙の本の2～3倍の価格であることに加え、使用回数や期間の制限もある。初年度以降は利用が減少している図書館も多いと聞く。導入については、成功している図書館を参考にした上で、慎重に検討してほしい。

以上